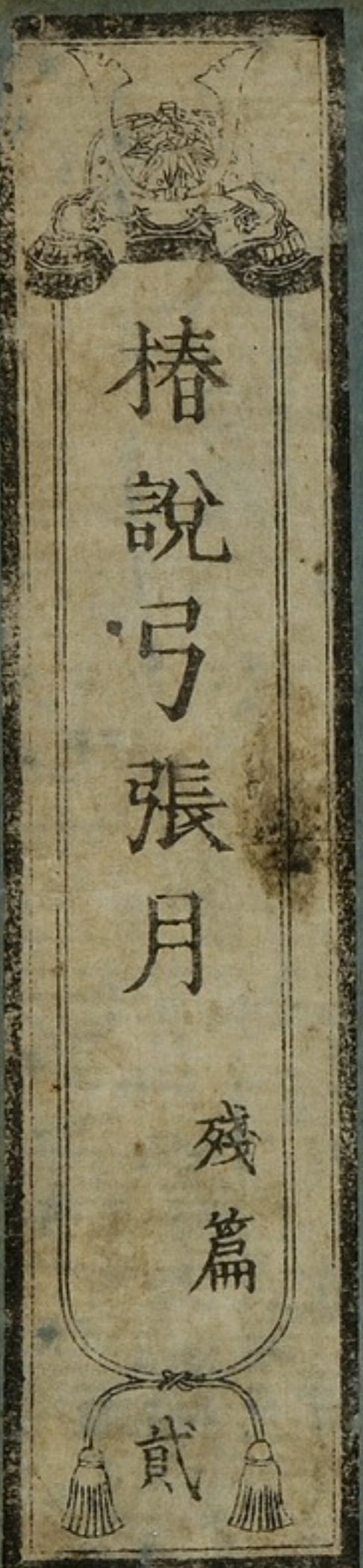
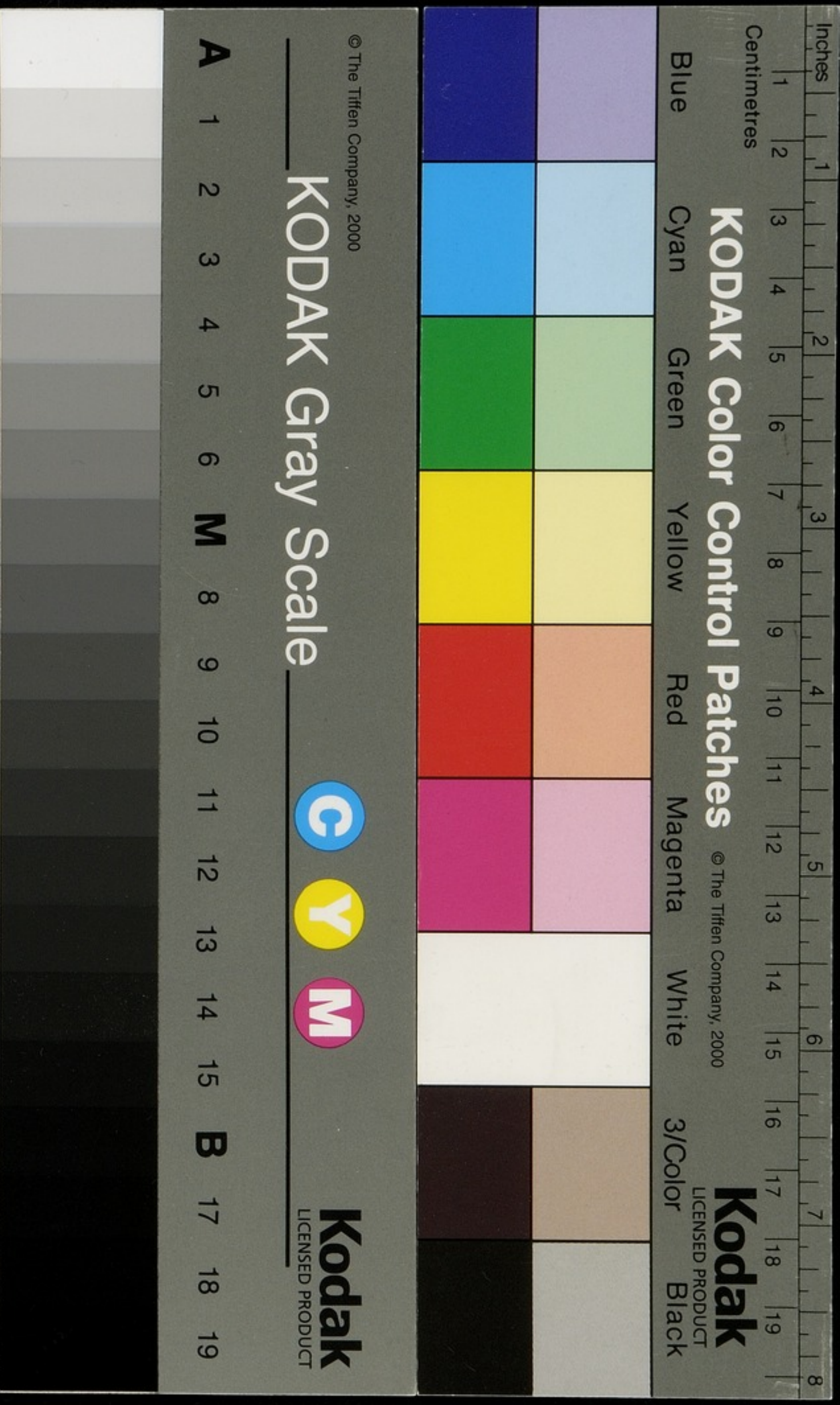




『椿説弓張月』残編二

鎮西八郎 椿説弓張月殘篇卷之二
為朝外傳

椿説弓張月殘篇卷之二

東都

第五十九回

箭やをお肩かたあてそてて舜しん天てん丸まる山さん北きたにお赴むかふ

大里の按司八郎為朝ハ。もつゝひも姑巴寫めて舜天丸紀平治ハ
 環會。互別離の情ヲ述て只是黄泉の人の更ハ蘇生志傳
 うこころ。王女も亦ゆ未可ハかこのころを相語する物にいひ
 さぬ白雉姫ハ異なり。はるえりあんと。紀平治ガ附さるハ奇異の
 かりひやうを後ハ舜天丸もいづれて曉りて或ハ飲ひ或ハ歎き
 慈母再誕のころハ親子主後嶋山ハ圓居する我ハ綾錦
 たりとく。うきとくひりて。そのとれ為朝ハ。利勇矇雲ホクろの

顛末を舜天九紀平治小説とす。これ嵯角のしりしより。戦場ふ
 臨み。とえて一とじも不えをうへに。保元の敗軍ハ頼長公遮
 て。軍略を用ひあらざればなす。あうおふ彼矇雲と。舊虬山の
 古墳より出現あらうらうら妖僧なれば。幻術測がじといへども。妖
 と徳は勝どといへば。やハ一戦ハ負べきと。敵はありひ悔りし終
 生涯の恨なりけ。加旗。今茲ハ為朝が機運ありかりきと曉らそ
 ちて軍を起し。これこそ。もうハ敗軍ハ及ぶるなれば。かれは且く
 この嶋ハ親子主後躲ひて時をまうら。来春俄頃ハ討ち出さむ。
 矇雲ハ首ハ獲て。軍門ハ鼻入し。奇を指し。くなくへ。林を夫ハ
 羽生とめて。佳奇呂麻ハ船をくへ。来春三月の比及み。好らとび
 一葉ハ掉さして。主後を迎めんと宣へ。林太夫らけり。あうの仰

理ありにともちりひかり稱と彼蒙雲の幻術りて千里の外にも
 あるといふ。こゝに在んといと危し。賊軍下しび出まゝは外
 援の兵なく。脱れあつた小船もあつた。万夫を當の勇次りて。
 あつた。御示れ戦ひぬ。寡を固まりて衆に敵かゝる。人の
 膂力もかぎりあり。かくて擒となりぬ。悔も争及ぶ。愚
 なれどのかくまうさば。嗚呼なりとあやとくれと。智者も一失
 あり。愚者も一得あり。遠れ慮われりぬ。近き患をあるなる
 こと。佳奇呂麻人の按司王女の仁徳を慕ひなれ。こと既に
 久し。を去る。嶮小赴れ。年才利勇蒙雲は。
 鹿られぬ。嶋人小簞食壺お酒して迎なむ。佳奇呂麻
 のも。鬼界鳥奇奴。由呂。度姑島なるといふ。

母の嶋長をいふ。母苗めてい。さそひ妻子の公苦しくあはれ。まじり
 その妻子が苦しくめて。あはれの別。さひうえんや毎日磯辺より出て
 長がゆると付く。まきまき佳奇呂麻へ立之て。人のところを安く
 せよ。この嶋の仙桃あり。桃をりて糧とせ。米穀も欲か。だがこれ
 好意を他よせ。とどく。衣をばとて。冬の料。宛をた。と
 仰。さあ。お賺しに。しら。人へ。紀平治も又い。某西國。人と
 かりて。いへ。よく。こ。あ。船造る。ことを。あ。既。斧あり。鋸あり。は
 嶋長が。手。借。及。び。八町。礫。が。老。の。ま。ま。び。船。の。輒。造る
 ぶ。あ。う。ば。や。磯。雲。が。賊軍。こ。に。よ。せ。あ。る。も。進。退。さ。べ。く
 自在。あり。かく。て。春。の。比。及。林。太。夫。が。お。ん。迎。ふ。あ。う。と。も。往。還
 ち。あ。う。せ。る。べ。し。と。い。ふ。あ。う。船。ふ。う。飲。ひ。て。紀。平。治。が。船。造。る。

くれ。又。翼。が。お。れ。が。如。し。林。太。夫。と。さ。や。舊。の。嶋。へ。く。り。て。春。も
 三月。の。と。じ。り。ま。至。る。と。じ。り。て。縁。由。を。告。て。嶋。人。お。と。か。い。ひ。潜
 小。兵。糧。次。船。に。積。む。泊。の。西。濱。小。漕。は。し。為。朝。が。宜。野。渡。浦。添
 攻。め。と。い。ふ。速。ふ。来。會。せ。よ。と。仰。され。ば。林。を。ま。い。や。う。よ。美
 しく。さ。あ。も。か。ふ。も。君。の。お。ん。に。め。と。回。答。し。つ。次。の。日。船。底
 舟。貯。り。て。嶋。衣。斧。鋸。を。と。と。紀。平。治。は。遍。ふ。し。と。り。大。洋。は
 樽。し。て。佳。奇。呂。麻。へ。く。り。け。り。さ。の。下。に。結。み。却。説。為。朝。王。女。の。姑
 巴。島。は。田。子。て。舜。天。九。紀。平。治。と。さ。も。に。磯。雲。を。斬。破。る。計。策。を
 議。し。あ。う。今。茲。も。既。暮。な。ん。と。い。さ。す。も。紀。平。治。の。齡。か。さ。あ。れ
 ぬ。と。い。ふ。仙。境。は。年。月。を。経。た。れ。ば。あ。や。氣。力。壯。年。の。と。れ。より。も
 健。よ。う。め。て。日。の。う。ら。一。艘。の。独。木。船。を。造。り。出。し。た。れ。が。枯。も。さ。さ。ぬ

三



こゝろ
姑巴嶋
き平治
紀平治
造る
独木舟を

只顧ふ祝しなほれも奥あれば。みみ笑壺あぞ入りしをふ。かくそ
 恥をば大栄河に乗捨て。各行李を脊負ひ。行囊は項にけ
 名護と佳楚との山間より。恩納嶽のかへ赴たふ。主後
 四人おほし道を。りとも走らる。人ふあやし。あらうこと。こまや
 とて。為朝の舜天丸をおて。二里あまり先より。王女は紀平治を
 おて。遙か後れて。あやまふ。り宿借らば。その簷は。織を出し
 おく。と。豫て示し。あし。多く。ろ。ろ。山路のみを。踏つ。竟に
 人煙を。え。ざり。し。ふ。な。く。ふ。後。中。を。れ。ら。し。て。その夜。恩
 納嶽の。や。どり。中。露宿。し。つ。明。き。ば。亦。路。を。つ。そ。が。した。ま。ふ。ふ。ど。に
 王女と。曩ふ。との。山。中。志。し。勢。り。て。查。國。士。は。環。會。又。毛。國。興
 新垣。亦。忠。魂。不。償。せ。られ。あ。む。く。危。窮。を。脱。し。し。も。今。ハ。八。年

の夢の跡。それの。覺。も。その。人。の。面。影。と。亦。幻。ふ。も。ふ。は。終。る
 たり。を。果。敢。う。と。これ。より。路。を。東。南。より。て。越。来。の。間。切。より
 あり。つ。彼。真。路。が。勢。に。跡。と。え。く。れ。む。名。の。と。を。朽。ね。石。橋。に
 涙。や。凝。く。苔。の。氣。散。や。か。この。恋。あ。て。路。さ。り。あ。く。を。立。在。る。あ。ん
 人。と。あ。ら。う。と。紀。平。治。中。扶。掖。れ。て。中。城。の。東。る。る。姑。堀
 の。山。里。ふ。ふ。ふ。ふ。日。と。西山。は。傾。き。ろ。り。寔。より。ハ。廉。夫。人。の。と。う。う
 月。伏。る。ふ。む。じ。つ。づ。ら。の。油。樹。も。母。の。形。見。と。身。を。絞。る。袖。の。こ
 い。と。露。け。て。お。ほ。じ。歎。きの。ね。や。誰。建。て。より。ま。と。遠。う。ね。
 卒。都。婆。女。え。て。も。う。ら。か。さ。しく。外。の。功。德。を。さ。ふ。あ。め。て。あ。じ
 念。じ。て。伏。拜。と。去。人。と。して。い。く。そ。と。び。亦。と。ち。房。は。樹。下。蔭
 昔。家。の。闇。と。夕。と。えて。孰。う。人。や。鳴。く。山。鳥。と。共。け。堀。を。り。と。め

あまのひね

第六十回

燭を秉て山妻客と留む
劍を借る樵夫婦の俟

さるはる朝を昇天丸をいそがして山下へ入る。その日も既暮果て人影罕なれ谷蔭より一軒の白屋ありけり。芭蕉の稚鳥風戦ぐ。蔓より細き燈火の幽よりて。いそがしうば。戸折戸ふまよりて。まづ密中へ闕窺めく。年紀ハ三十あまりにして山ふところめいと似げなれ。顔は八九分の紅あれど。天目一の命の炊妻や。偏目盲くれば賤婦が。芭蕉布織てなつりたる。爐火焚きより。柴の生樹の煙いふせげ。霧の中なれえうとむかし。昔を志のふ面影ハ由緒めれり。零落と。萍の宿ふ世とや避ぐん。かぐりの処は宿りを借とも。身の内とがれる。あはれ。おひひくや。と耳詰る。あはれ。昇天丸も。それを闕窺。昨夕一夜さ露宿して目睡ともなく。あはれ。これ。母君さ。その疲勞なす。り。鄰家ども。なれ孤館を。さうく。小憚る。か。も。い。う。と。今宵。さ。い。に。あり。ま。い。と。回答。め。あ。ふ。さ。い。と。半崩と。か。い。戸折戸を推して。え。て。為。朝。や。て。す。こ。い。これ。と。山。路。暮。し。し。れ。旅。客。なり。この夜を。あ。は。し。と。び。て。ん。や。と。親。子。り。う。と。も。呼。門。め。く。彼。賤。婦。へ。え。か。り。つ。忽。地。機。の。て。と。え。簷。端。に。か。よ。ふ。松。の。風。色。根。ふ。ま。う。く。雪。より。外。あ。い。と。え。て。音。は。り。友。と。あ。ふ。ね。孤。館。に。緑。あ。れ。ば。こ。そ。踏。ゆ。く。人。の。宿。り。を。乞。な。め。あ。は。れ。い。出。て。家。は。あ。は。れ。と。山。下。な。ら。ね。ば。

馬路ふ遠し。えまふごとく雨のさうなり。月さへ漏れど透間の風を
 禦ぐべしよとぐも付ふに夜の会と夫婦の外は被げすかりさる
 料はなけれど。これをも厭ひあらざる宿り多しとほひとほひ入る
 炊待ぶりに親子の野路の驟雨も笠はけり。これを持して。その
 空ろさされまでもあらば。臥房さふ貸あり。頃日の暖さ会ふま
 と欲うとて女子さ人侍ひとれ。此一後。これと今とさうや追著
 らぬ。ゆい。多くといひうけて。為朝の脱とるまを斥折戸は結びさけ
 け。王女紀平治が目標とし親子ひとしく竹簀子に尻をうけそ
 草鞋の紐を解る人へ賤婦を藤蔓の蔭せ。桶の水を汲入れ
 る。為朝舜天丸お足を濯ぎ。掃ハ稜の逆毛と破と席次
 かん拂ひつ。さうさへと誘ひ。やとらあらぬ。朝の後方。跟

とてする。おろし
舜天丸も地元のほとりふけを白く人へ。海螺も竹を押曲る。
^{どぶ}
土瓶めくれぬ湯もよれはど母沸かす体をも挽の碗に級こ
なるとべてさし出せば受りちて親子左右成えたるなまらふ壁
あちて骨をあらし柱と朽て皮とぎられ携夫の家々とおりま
獣皮もほし。山賊の隠宅や。とさそぐみ放し。かきうて。いふ
ともなく吐きそれを賤婦につくとて客入とちん何國より
何処へとて旅をばあらふ。さらぬ耳たれね。抄のいひざまなり
といふ。朝つづかう人々曉もあたりやといと使すくわありひ
おぐりまきこめえさせものぞ。いふれごとく吾門に於幾乃属島
なる硫黄商人なるが幸なれるものとおほうれふ都會の地に格別
ふ生活のよそぐもあつく思ひて此度妻子を入おとのやりすめつる。

するも腹きこなく追ひも歩ば公安く休ひと信かうふ
 い慰れば為朝の舜天丸とめをあれしりうう人ありてうと公
 つかれど外くしてその好意を飲びえ只江湖上のおがうふい
 紛らうとせられれば賤婦の為朝の腰刀に目をつけつ端ちううと
 月影をつぐとらち瞻め常あめぬあじの遅さは近属の盗
 賊如くにひそぐて都のうとらち静るうととくめのをあふる
 の夫なりとひとりごちけええりて客人をせし留ましてうと檜阪
 よて一走りいゆれてえんといひうて熟し山とて只ひとり月と燭あ
 走去り舜天丸を賤婦が背影を目送りく又君いうあおげと
 やん孤目婦が歎待態あまりに信かうなれうとうと路にに
 彼うう人を猜たりんおん佩刀をゆかけ猛は外面へ出きり

夫小結の越を告あじ誓もろせん為なれし顧みころハ
 山賊の棲るうにと噂雲が察事卒の細羅を張つ俟やあふん
 荊路と走りがう朽梁とうとれへうう山中と世を溜ははと
 いふもうも又久恋の家母あふ這奴ホがわりのあね間ゆと
 去去と声密中う小室へは朝夜てうと点路られもあ
 ころなりされたとて王女紀平治ホるは塗ありそれとも告
 として親子遠く脱とあうもあは夫婦が害心あり支堂あり
 てそれを追ひいれされも又敵地あり欲め耽り利め聚ふ山賊も
 めれ噂雲が察事卒もあふあれ怖うあふと怖うい足ふに
 只うち捨とあれとと騒ぐううもなく回答も折うら勿地外
 面人音してこれありくといふ声の正は紀平治うととて舜天丸ハ



越来山の
孤館
為朝宿

耳聴く。衝と生く。斤折戸紙。さうより。岡へ多人。王女ハ。主を脱去て。
 臆く。さうみ入る。多。紀平治ハ。王女。の。主。が。主。を。さう。か。さ。
 亦。乃。朝。の。目。識。は。さ。て。生く。多。主。を。取。て。足。彼。を。ひと。母。柄。
 くれ。庇。う。ち。え。あ。けて。竹。簀。子。母。尻。け。多。主。の。草。鞋。を。さう。す。か。さ。
 され。へ。舜。天。丸。ハ。母。君。の。長。途。の。疲。勞。を。勸。了。て。覓。の。水。紙。汲。う。けて。
 足。の。泥。を。濯。く。さ。わ。じ。小。庭。う。れ。拂。ひ。て。誘。く。多。人。ハ。紀。平。治。も。折。
 くれ。裳。を。あ。け。て。團。坐。く。主。後。四。人。多。の。恙。な。れ。を。祝。し。祝。さ。れて。
 さて。王。女。の。宣。ふ。やう。日。ハ。向。暮。と。さ。る。に。公。の。こ。い。そ。く。て。お。ん。跡。紙。
 暮。ひ。す。か。せ。じ。が。さ。ひ。の。外。ハ。障。ろ。の。け。り。て。い。く。お。れ。け。り。夕。月。
 の。影。の。い。と。隈。な。れ。と。世。ハ。暗。が。あ。り。便。う。く。多。人。ハ。賢。く。も。識。の。主。
 を。生く。多。人。ハ。同。じ。て。お。ん。宿。り。を。さ。う。と。り。と。ん。と。や。精。け。り。と。さ。ふ。

小紀平治へ人やぎくとして信と奥をえ入れつ。膝をさうきとて乃躬は
 まうにやう目今うへまつる途めて山賊ともやうき大男五七人樹
 立の蔭にはいかてうち相續をを外まうきめてひく首尾を定う
 ちふ縁ど半の爲朝を生捕て夥の賞銭を賜ふんといふ半のこ
 小後つて衆議一決せられが如し。このみ張るうより大殿稚君のう
 かりとなぐ王女は注目して足や走りて其処より路を摸もちりて
 樵夫どもかよじとよふ葦の細道を五七町ある程ふ偏目盲う賤
 婦ふあひぬ件の賤婦つる主後みえりて旅客の侶は後れあふ
 のびや今宵ふ宿ふ二人の硫黄商旅を道られが一人が年の齡
 四十のまうにりて月の長高く又一人は少年ふたり。りあてあふ
 ばうより南へ四五町むう大にやうなれ槐樹の下。ちひされ家れ

付るが。つうつへぐ宿処あり。とぞして行るる。忽地懷より。斤木一枚
 を落し。呼苗人とて拾ひてるる。一人田土夫婦と記せり。王女を
 是を以覽して。熟文字のつを按する。一人を合すれば大に田土
 をあつとれば里なり。大里の夫婦とハ郎按司とつづるゆなり。さてハ
 彼を中も猜して。今宵替もさへん。その支堂ふ觸あつとそれ。
 割符あやとおはし。あうふ。嚮ふ樹下めて。うち相語つれ癖者おも。
 是彼おほ。夥計めて。ありとれ。と宣ふ。おひあをふ。このそ
 なれば。彼賤婦を追ひ。うへて後の患を除んとて。えう。おれ。や
 往方にあふ。毛を吹き疵を求人より。そやく。両君告す。かせん。
 と源念して。主従只管走りけ。やうや。おん宿りふ。づ。祿あて。う。
 といひ。つて。件の檄をとり。おと声り。ら。は。と密語の。は。め。り。り。

ときをもち。そしてするあきり。ふんぞり。ちくまこときこゆき。いまきへいぢ。つづ
 を受果て舜天丸頓。母嘆息。父君は。居れ。今紀平治。出る
 ところ。いよ。疑ひなれ。め。まげて。その処を。走り。出。這奴。ホ。が。置。成
 脱。と。ま。いと。危。と。諫。め。ど。乃。朝。を。只。点。改。ま。の。こ。あ。じ。の。婦。が
 い。ひ。つ。る。や。亦。その。夫。の。ゆ。を。と。え。んと。て。嚮。ふ。外。面。へ。出。る。や。王。女
 紀平治。は。脱。走。し。舜天丸。を。む。く。言語。を。盡。して。う。に。あ。る。へ。危
 と。い。ふ。その。危。れ。を。ぶ。る。れ。も。あ。れ。り。あ。り。と。い。く。ど。も。敵。を。え。て。一。歩。退
 け。敵。又。一。歩。進。む。め。之。進。退。彼。と。我。あ。る。の。こ。勢。ひ。竟。は。脱。走
 か。じ。天。運。こ。に。循。環。せ。ば。彼。矇。雲。を。伐。拂。ひ。く。天。津。日。光。を。民。小
 え。せ。る。ん。り。つ。る。武。運。あ。る。母。竭。な。ば。野。人。山。賊。母。も。勝。つ。と。え。勇。力。士
 と。え。を。喪。ふ。と。を。忘。れ。ど。それ。あ。の。づ。う。処。分。あり。王。女。舜天丸。紀平治
 へ。且。く。物。の。蔭。お。歸。れ。よ。婦。が。夫。を。伴。ひ。か。る。を。ま。う。あ。い。あ。じ。と。丈夫。の

かそれぬ日本魂（あまのたまひ）小練（こゝろ）めかふと主従二人さへとて些（さ）一奥まり
 たる花屏風を引繞らし蜘蛛の網拂ひくぐりてひまへは朝（あ）へ只
 ひざり燈火（ともしび）吻と吹滅て闇（くら）き中（うち）をせしむるその夜も既（よ）に真亥
 中とぞと鐘もおとつれを隙洩る風と谷川の音のこけり車（くるま）まゐ
 かくし経小外面小忽地人の足音して片折戸を推開きあはれ声
 におろして千歳こゝと数回（あまのこゝろ）ひびくがらややくに地炆（かろ）のふとて
 小探り著（つき）さても吾妹（わが妹）子がいぎとなさう（う）よ埋火（うゑい）一おろびて何所
 あり睡輦（ねりこ）とれまご甲夜（よひ）するふとひとりおちこまやあるとあはら
 や家の狭き夜鳥のとりぬき（え）猶手おぼえに棚乃隅（とみ）壁言のけし
 の趣（い）の呂おろしてすがてうちつけて引（ひ）はしなぐり行燈へうつを火光
 小あはれも對（ひ）ひしとれ為朝と面をあはしてうち敬馬（おとろ）に八郎

按司（あんざ）ふとれさげやあはれ松壽（しょうじう）なりとれよこけり（こ）といふとむろに
 りてる發（つ）燐（けき）の燃（も）はしを膝へおとして亦うれ拂ふ栲（た）のつれのけつれ
 糸ある慢（まん）なりとかとみつ松壽（しょうじう）ハ些（さ）一引さぐりて破る襟（えり）をうた
 あはれやう何よりうまうにへき去年長川の敗軍（さいぐん）軍（ぐん）大将の往方
 をあはれ縁果てあはれびくふ索（さく）すかたせう（せう）既（すで）に島袋（しまふくろ）あて猛
 火（ひ）は焼と灰燼（はいじん）となりまひぬと人もいひそれもあるあへは遠（い）感
 らとくやうかとなれと白骨（はくこつ）なりとも拾（ひろ）うんとおろかむろに自
 殺（ころ）もひせと是首（こゝろ）彼首（そゝ）に刃（や）を屈（く）して一日二日とあつたあど小
 王女（みよ）も亦大里山（おほのさと）みて移（うつ）れまひぬと父（ちち）えしう望（のぞ）みうに終（は）みから
 遮（さ）莫（も）矇（も）雲（うん）を一刀うみみて死（し）まへ死（し）てん女（め）に死（し）がぬまへき
 あはれと志（し）を激（げ）せども鶴亀（つるかめ）も移（うつ）れえいひがひなれ雜兵

ホと。ちりくちりく。四零八落。ありしうば。孰は相語人。よきもなし。救心
てき。み敵。あふれて生拘らる。こともあふ。何の命。死に。怨み
雪人。潜る。あふ。と。必ひ定めて。遂に樹。小縁草。伏し。越来。の
山。よ。け。入。て。きのふと暮。け。あ。う。日。の光。も。疎。谷。張。も。
春。うち。ひ。く。ハ。霞。より。な。月。あ。じ。な。れ。大將軍。小再會。一奉。ふ。
飲。び。これ。あ。ま。た。い。と。し。と。首尾。を。お。か。り。て。いと。信。ち。小。款待
ども。為。朝。さ。う。に。うち。鮮。あ。う。だ。いつ。所。さ。も。あ。り。る。人。あ。う。
あれど。頼。と。か。れ。人。の。心。なり。か。く。ま。て。忠。義。成。あ。り。あ。と。う。ふ。
な。ぞ。や。婦。小。侶。れ。割符。とり。て。支。堂。を。呼。び。聚。い。為。別。を。解。ん
と。い。せ。れ。あ。う。お。う。と。宣。へ。ば。松。某。一。切。必。ひ。く。に。某。妻。を
娶。り。し。ハ。多。く。迷。ひ。て。志。を。移。さ。ふ。あ。ふ。に。尙。さ。る。お。う。件。の

女子。ハ。偏。目。こそ。盲。れ。亡。妻。生。の。終。り。回。教。し。似。る。ふ。あ。れ。の。こ
な。う。に。あ。ま。い。と。信。ち。な。れ。ば。あ。じ。浮。世。を。あ。め。ん。ふ。み。これ。を。解
ふ。身。を。は。し。り。亦。この。山下。る。獨。夫。小。志。氣。あ。り。の。と。か。う。ひ
それ。張。良。が。才。器。なく。彼。又。蒼。海。公。が。勇。力。なく。とも。矇。雲。が。出。る。を
張。ひ。車。さ。も。に。解。殺。さんと。竊。は。謀。り。し。の。あ。れ。と。君。真。物。も
照。覽。あ。れ。我。を。忘。れて。忽。地。は。威。豪。小。著。松。某。な。う。人。を。あ。せ
あ。の。ね。軟。と。氣。多。く。を。変。て。怨。ま。れ。ハ。為。別。呵。くと。冷。笑。ひ。彼。世。俗。の
常。言。小。論。より。證。拠。と。い。ふ。と。あり。衆。皆。お。よ。と。呼。び。く。け。あ。く。を。延
屏。風。を。搔。遣。り。つ。舜。天。九。紀。平。治。り。う。き。も。に。王。女。ハ。前。を。出。て。松。某。
小。對。ひ。東。風。平。按。司。の。隱。宅。さ。も。あ。う。て。宿。り。親。子。主。従。慰。免
よ。と。あ。の。あ。ふ。糸。ぞ。も。嚮。向。し。ハ。足。下。の。支。堂。と。お。ほ。し。野。伏。お。う。

樹の下に立集合八郎按司と捕捕人と密中り商議と。さういふ
 途めて竊ませり。かくいへばあが仏をさるふに似れども。八郎按司と
 自然天地神明の冥助をせん。嶋代衣もく猛火を脱れ夫婦ひら
 ぬ路をきりて佳奇呂麻人よ誘ひし船を姑巴島の荒磯よはて
 生死存亡あるよしなり。舜天丸紀平治亦小環會静けり春の
 日和をすちねて更小兵士と集んるも亦彼此の八重山に越来ふ
 ちうれ谷川の水に元来清れど濁りし足下の底意をある。結目多
 うれ細代戸の藤の素の鮮はあつとも。あつといふにほなりん
 といれまゐる人紀平治と拾ひし檣をとり出でて目ちかく松島お
 じ著つ。行燈の火を推向いふこの檣をあらりや。日本琉球
 異なれども八郎乃朝の老堂お八町磯紀平治ありと。三年す

年も及びつらん十年あつた春秋を信む人もかれ孤島におつ
 て稚君を守育いふ。いふも大殿に再會となしすわづし今此國へ
 推流る。かひあればこそ汝が妻の遺せし檣を拾ひ獲て野にある
 を猪しうれ一人田土夫婦と大里夫婦の又袋縫今宵汝が
 小らえし。そのよしを密中り支堂お觸あつたれ割符くとも
 樹の下めてうち商議る悪棍ホと。汝が妻の挙動をかりひあへて
 これをあられ。かくても鏡をあらそやと眼を睜じ罵れ舜天丸
 も扇よりあはし姑巴嶋にありと。いふ。いふ父母のあがり
 みてこれをあらべいと頼りくおりのり。さふおのり。物言ふ
 入れ財の身方々の仇かゝとて身へ賤しく。さう山賊となれば
 こそ既お汝が妻と。いふ。いふ千歳と。いふ。いふ父のえん佩刀は目



かけられどく支遣を喰つてく。敵手擇ね舜天九の本事をえせん。
と扇投捨刀の鞘もみぬけく。八町磔も責子の上。刀乃瑞
衝ちく。左右よりさし挟む勢ひ猛れ主役をどんからん。足踏陶
松壽も腰お連れ短刀を取て紀平治め投通し項に伸し牙を
はしても。身の濡衣を乾ぬ。雲の命へ惜く。てまう人後の名を
惜む。かりひあまうて中うやくに首を擡て歎息。風の音もむ
あうれ。君が凋落めとん。それ疑ひ。うふの理あり。むとんおけむ
小半半婦く。うへうもあう。縁ど松壽おいて。今ううに南の
海へ陸と。れらも濁る。世の山豪と。りて舊主め冠せんや。抑
ろの山中。お身と隠し。なれ。うふ。あまう。一日を送り。落る。おの
中。おゆを。らて。ま。う。の。ゆ。と。う。ふ。あ。の。山下へ。廉夫人の。自殺

あ。れ。姑。場。も。近。く。又。亡。妻。生。の。跡。が。移。れ。越。来。の。石。橋。は。経。を
か。へ。移。せ。て。そ。の。な。れ。跡。吊。人。と。足。引。の。谷。行。も。あ。う。ね。山。松。火。
剣。り。て。削。り。か。ぐ。二。本。の。宰。都。婆。を。造。り。て。夜。は。紛。き。て。彼。処。は。赴。れ。
これ。を。建。て。ま。か。つ。れ。母。偏。目。盲。う。る。婦。女。子。ひ。う。り。木。を。賣。て。ゆ。る。に
め。ひ。ぬ。候。初。ま。う。ら。お。い。ひ。う。け。られ。ま。う。その。め。の。う。へ。同。み。彼。を
推。夫。某。甲。が。女。児。な。れ。は。近。属。父。母。う。ら。つ。ぶ。て。身。ま。う。り。ふ。れ。山
姥。と。こ。ろ。み。ひ。う。り。住。ご。も。憑。ひ。べ。親。族。も。あ。う。に。か。く。う。も。命。を
惜。れ。り。の。あ。て。柴。を。伐。了。布。を。織。了。且。ま。星。火。戴。れて。里。へ。出。父。お
と。月。火。負。う。山。め。ゆ。ふ。こ。う。は。そ。と。推。量。め。れ。と。う。ち。歎。く。物
の。い。ひ。さ。う。回。れ。え。は。よ。う。故。妻。は。似。る。や。な。似。う。り。け。る。と。う。ふ。も。お。の。惡。ひ
めて。ま。つ。一。樹。の。蔭。は。宿。う。も。他。生。の。縁。と。て。捨。う。う。忍。び。と。我。身。を

人を死ぬ己のく。といひもめを。左も右もかへりつ。柱の
 下小倚りけられ礎の柱を引はして。ふくら頭を打碎んとせりし
 かば彼をえよと為朝のいも邊へ命をけふ舜天丸紀平治左
 右より拳ふ携り腕をひききめて。ややく根を棄ひしう。松寿
 といふ。自と羞く更み改を。福も擡と。當下為朝を松寿を打
 んて頻り嗟嘆。東風平按司が年未の忠信。おひひくふれ。
 今いふ所。語りよめ。借りのみ。按司が。これらも亦。矇雲が幻術
 のつと。正し。足下。のころを。蕩して。為朝を。撃せん。め。牧
 志。彼千歳と。や。ん。妖婦海棠が。類。な。ればこそ
 件の婦。嚮。ま。を。朝。が。腰。の。刀。に。め。か。け。さ。れ。る。が。刀。ハ
 源家の重宝。鬼切時鳩。は。異。な。る。為朝。い。わ。る。嘉應二年の秋

讃岐國へ赴きて新院の山陵。詣りけられ夜君を。と。え。ち。り。
 父より。延尉。為。義。兄。なり。ける。左。衛。門。尉。頼。賢。掃。部。少。頼。仲。
 加茂六郎。為。宗。源七郎。為。成。才。源九郎。為。仲。亦。至。る。夢。の
 中。み。姿。を。現。し。世。の。なり。ゆ。べ。光。景。を。う。ち。相。語。ひ。あ。の。後。は。松。く
 風。小。驚。れ。覺。れ。枕。方。ふ。一。口。の。宝。劍。あり。これ。は。足。保。元。の。事。ある
 除目。行。れて。上。北。面。な。き。れ。近。江。國。伊。庭。の。庄。美。濃。國。青。柳。の。庄。
 と。も。に。賜。り。う。る。多。れ。鶺鴒。の。丸。の。御。劍。あり。傳。聞。の。劍。ハ。白。河。院。
 神。泉。苑。に。は。存。なり。て。御。遊。の。序。小。持。次。は。け。り。して。御。覽。ぐ。れ。は。
 殊。は。逸。物。と。せ。に。鶺鴒。が。二。三。尺。ぐ。り。あ。れ。り。の。を。被。け。あ。げ。つ。と。り
 お。と。と。代。衆。皆。怪。し。と。思。ふ。後。四。五。度。は。あ。ら。び。て。後。衛。て。あ。が。れ。

をえん^{きん}々^{かん}金^{かん}覆^{ふく}輪^{りん}の太^{たい}刀^{とう}なりけり近^{きん}臣^{しん}なる奇^き異^いの事^{こと}なりと
 まうに上^{かみ}皇^みもいと不思議^{ふしぎ}思^{おも}食^くかふに天^{てん}劍^{けん}なりとぞ
 かて^う精^{せい}の丸^{まる}と名^なはけて^{ごひ}秘^ひ藏^{ざう}ありけりかて^{せん}件^{けん}の精^{せい}の丸^{まる}
 と^{たの}の丸^{まる}と^つ人^{じん}を亦^{また}新^{しん}院^{いん}へまか^あせま^あひ^あ新^{しん}院^{いん}竟^{けい}ふ^ふつ^つ
 父^{ちち}よと^おした^したま^まひ^ひ恩^{おん}賜^みの宝^{ほう}劍^{けん}爰^{こゝ}の中^{なか}あも父^{ちち}為^な義^ぎが白^{はく}糸^し
 威^いの鎧^{よろい}の上^{うへ}佩^{はい}りけりこゝへ^ま實^{じつ}飲^{きん}鳴^{めい}呼^こ奇^きなるか^かと嘆^{なげ}
 賞^{しょう}して^あ技^ぎは王^{わう}散^{さん}る秋^{あき}の霜^{しも}消^きし後^{のち}も子^こはあり親^{おや}の形^{かたち}見^みの有^{あり}
 かこ^こう^う人^{ひと}も^も生^なる^るこの年^{とし}来^{きた}腰^{こし}は離^{はな}れ^れば^ば往^{さき}は風^{ふう}波^はの
 難^{なん}は係^{けい}りて^あ松^{しょう}の反^{はん}覆^{ふく}らんとせ^せと^とれ^れふ^ふを^を巾^{きん}綱^{きやう}を切^きる^るせ^せも
 又^{また}妓^ぎ婦^ふ海^{かい}棠^{たう}と只^{ただ}一^{ひと}刀^{とう}を^を破^やく^くと^とせ^せも鳴^な儀^ぎと^と火^ひを^を避^さぐ^ぐれ^れも^もなる
 この劍^{けん}の威^い德^{とく}とあり^{あり}人^{ひと}は^は牙^がふも^もか^かえ^えが^がこ^こに^に物^{もの}あり^{あり}と^と且^{かつ}く^く足^{あし}下^{した}ふ

これを^{これ}貸^かす^すべし^しは^はや^や千^ち歳^{さい}ハ^ハ嘆^{なげ}雲^{うん}幻^{まじ}術^{じゆつ}の^のあり^{あり}と^と流^{なが}め^めし^し
 禍^{わざはひ}獸^{くわう}海^{かい}棠^{たう}と等^{ひとし}しく^くとも^もこの靈^{れい}劍^{けん}を^を抜^ぬか^かじ^じて^て切^きら^らむ^むな^など^ど
 切^きれ^れが^が人^{ひと}を^を千^ち歳^{さい}が^が首^{くび}を^を刎^をぐ^ぐと^とこ^こに^に惑^{まど}ぬ^ぬ忠^{ちゆう}心^{しん}と^とあ^あじ^じて^てそ^そ
 と^と説^{せつ}諭^ゆ人^{ひと}を^をや^やが^がね^ね良^{りやう}将^{しやう}の^の理^り非^ひ明^{めい}断^{だん}に^に面^{めん}み^みあり^{あり}と^と王^{わう}女^{にょ}
 舜^{しゆん}天^{てん}九^く紀^き平^{へい}治^ちも^も只^{ただ}顧^こ感^{かん}嘆^{たん}あ^あり^りけ^けり^りそ^そ中^{ちゆう}に^に陶^{たう}松^{しょう}壽^{しう}を^を感^{かん}
 涙^{なみだ}坐^ざは^は拭^ふひ^ひあ^ある^る罪^{つみ}の^の疑^ぎは^はを^を誅^{しゆ}せ^せと^と刺^さる^る宝^{ほう}劍^{けん}なり^{なり}と^とあ^あじ^じ
 するとも^{とも}貸^かす^すふ^ふ恩^{おん}惠^ゑハ^ハ固^こあ^ある^るに^にあ^ある^る恥^ちを^を雪^{ゆき}ぐ^ぐも^も今^{こん}宵^{しやう}は^はあ^あり^り
 松^{しょう}壽^{しう}が^がなる^{なる}ふ^ふ惡^{あく}魔^ま鬼^き降^{かう}伏^{ふく}あ^ある^る飲^{いん}し^しを^を礼^{らい}儀^ぎ正^{せい}しく^く受^うと^とれ^れ劍^{けん}は^は
 左^{ひだり}ふ^ふか^かん^{かん}こ^こ今^{いま}も^もあ^あれ^れ千^ち歳^{さい}が^がゆ^ゆハ^ハ膊^{はく}背^{せい}き^きひ^ひな^なく^く破^やり^り
 ぬ^ぬせ^せく^くは^は月^{げつ}君^{きん}も^も冠^{かん}と^とれ^れ奴^{やつ}原^{げん}あり^{あり}は^はあ^あれ^れあ^あれ^れへ^へき^き限^{かぎ}り^り等^{らう}と^とあ^あ
 て^てい^いち^ちり^りも^も脱^{だつ}し^しゆ^ゆい^いと^と我^{わが}入^いて^て勇^{ゆう}い^い外^{がい}面^{めん}は^は妙^{めう}音^{おん}と^とる^ると^とあ^あれ

之裕園

後卷之八